

令和3年度平戸市美術展覧会 審査講評

工芸(一般)の部

審査員氏名(石添 秀正)

昨年につき、コロナ禍の中平戸市美術展が開催され、今回表彰式まで行われることは美術関係者にとって、とても嬉しいことである。

平戸市長賞に輝かれた「額紫陽花」は、刺しゅうの技法をうまく工夫され、アジサイの大小色とりどりの生き生きした情感を表現された点すばらしい。又、美しく刺しゅうの立体感が目を引く作品となっている。

奨励賞のハロウィン(灯籠)は、手びねりの跡が見えボリューム感たっぷりである。秋の味覚を伝えながら明かりをともしている作品、とても好感が持てる作風となっている。

今回、出品者の方が少ない様でしたが、コロナ回復期には多くの作品を期待しています。

令和3年度平戸市美術展覧会 審査講評

工芸(小中学生)の部 審査員氏名(石添 秀正)

1年生から6年生、中学3年生までの作品点数 118点と多かったが、その中から各賞に選ばれた方々、大変おめでとうございます。また、賞候補になられた方も一工夫、展開したら作風に磨きがかかってよかったと思います。

読売新聞西部本社賞に輝かれた5年生の「海に浮かぶ夕日」は、平面にガラス片を立体的に並べ、大地、海、空の情景をうまく描き、夕日に染まった一体感がすばらしく美しい。

奨励賞の6年生「平戸大橋」、中学2年生「海の王 ホエールマン」、1年生「かいじゅう」は特徴的作品、明るくユーモラスな作品で人目を引く様な作風である。

平戸市美術展がコロナ禍の中、開催されること、今回表彰式まで行われることは美術関係者にとって、とても嬉しいことである。